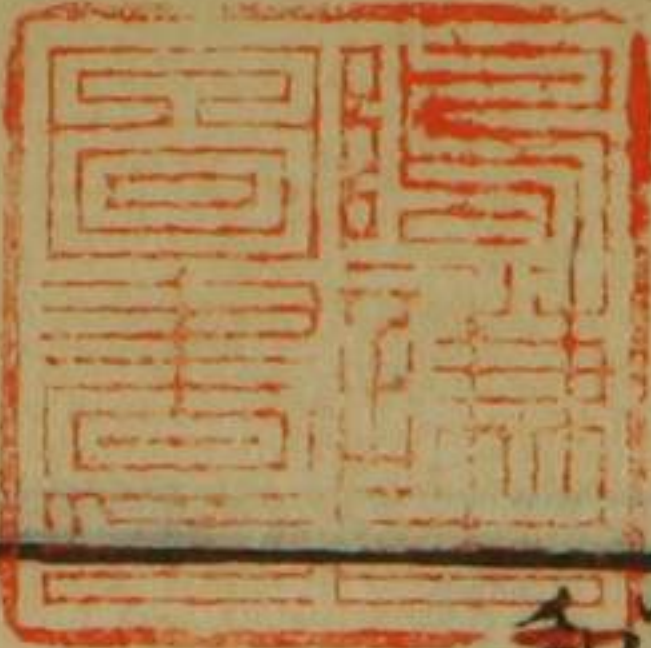


和泉名所圖會
大鳥郡 卷之二

ル 4
348
2



凡呂
補 348
卷 2



和泉名所圖會卷之貳目錄

金光寺 善長寺 神明社 七堂 石地 向井 乳園	一路 齋蹟 香懸松	本堂 鎮守祠 御生 二下門	多寶塔 不空堂 龍穴 反田	金光寺 善長寺 神明社 七堂 石地 向井 乳園	光明院 尊修寺 經王寺 新大和川 戸立井 飯王子 經見社	不空堂 龍穴 反田	檀首寺 成就寺 西願寺 悲田院 凡人中家 二園 石津郷 行家松 加去殺去地	檀首寺 成就寺 西願寺 悲田院 凡人中家 二園 石津郷 行家松 加去殺去地	虎子石 金光寺 中祖堂 高院 橋本祠 華井 牛頭大王社 履中 万代八幡宮 家原寺	華林寺
---	-----------------	------------------------	------------------------	---	--	-----------------	---	---	---	-----

イサハ

金光寺藤

辰の花

あなまて

あつらひ

つづく

共角



釋田神社
 大鳥居王子
 濱寺趾
 行興寺
 和田城墟
 菅草社
 二層塔
 陶瓦田神社
 死字芝

大鳥神社
 琴乃伎神社
 高石神社
 鴨田神社
 和田新發意墓
 妙見山
 高倉寺
 取石池

神宮寺
 道範旧跡
 高所溪
 大平寺
 山井神社
 櫻井神社
 祖師堂
 徳樓
 所石頓宮旧蹟

行基井
 明神教白石
 子貫橋
 日都神社
 大庭寺
 鉢峯寺
 陶器莊
 羅山子編
 鐵者堂



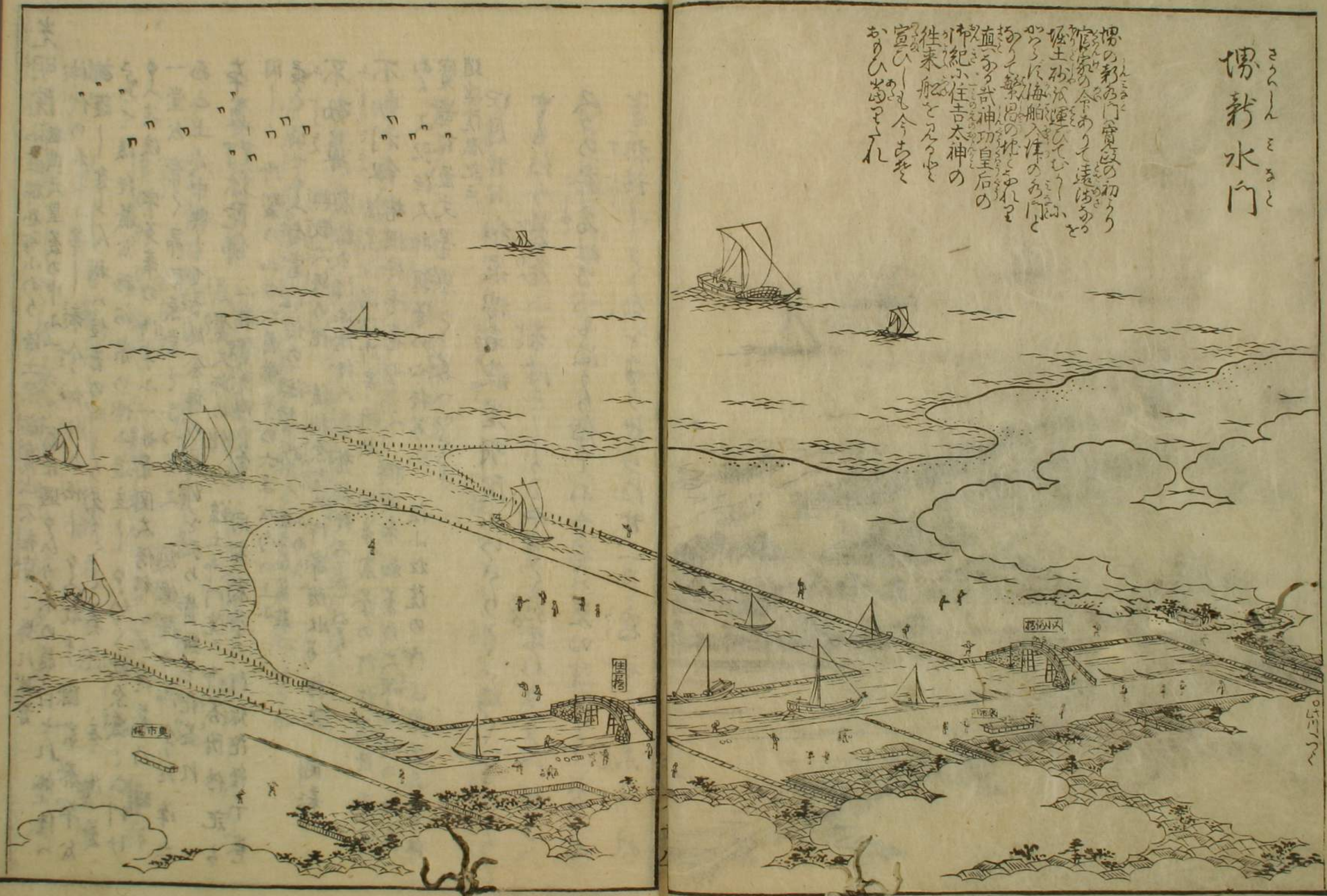
新井水白



軽子岩
笑姿社
お綱茶屋

堺新水門

堺の形は門を設け初より
 船家の令ありて遠海あり
 堀土を築運んでいりし
 かつに海船入津のありし
 ありし繁華の地とあれり
 直ありて神功皇后の
 御紀に在りて吉太神の
 往來船とるるや
 宣ひし今あそ
 かりしあり



光明院小莊梯を西小あり津土宗福寶公不動寺と辨に往昔

神代のわお小等一親今佛經に遇ひくかの翁日これ佛經の

擁護ししまらん我の恒吉の畔より奉ること奉り奉り奉り奉り

あらて後經藏に極河泉の佛小造立ししひく歌原藏とひけ

申入其後 宇安帝の佛字小一如景園大傍都かの經藏乃 畔干

西上上人中興して佛念佛の易りを弘り貴顯と北益に 津土

本尊阿彌陀佛 三條實隆卿の佛 後土津門院の佛宮附傳記也

同しく所製の和音六首佛号の六字は句の上小 同系寂尊の阿彌陀經十卷

不動尊 興教大師の佛 後柏原院の佛宮附傳記也 剛毅

不動利叙 後藤の阿彌陀經又卷梵網經を卷あり 同系寂尊の阿彌陀經十卷

わり又弘法大師真宗の心經を奉り 後小松院の佛經其外並佛

寶器古後文等舉るを奉り 後小松院の佛經其外並佛

道遙院後記云 四月廿日 和泉博南莊光明院小りりりりりりりりりりりり

中もけり 後唐小者はせしりりりりりりりりりりりりりりりり

又うの寄書此古へもはりりりりりりりりりりりりりりりり

とも据書しりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

半あひちちく宗物といふものを志すといふもはりりりりりり

竹中廿六日の書小せりりりりりりりりりりりりりりりり

より二十首題をりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

つとよりあつりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

をよひくその因あさかり

江上馳を

あれたり入の舟れ夕るを奉りりりりりりりりりりりりりりりり

宮本引あふりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

又月朔日光法といふもの連書具りりりりりりりりりりりりりりりり

しりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

淡松の名みやりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

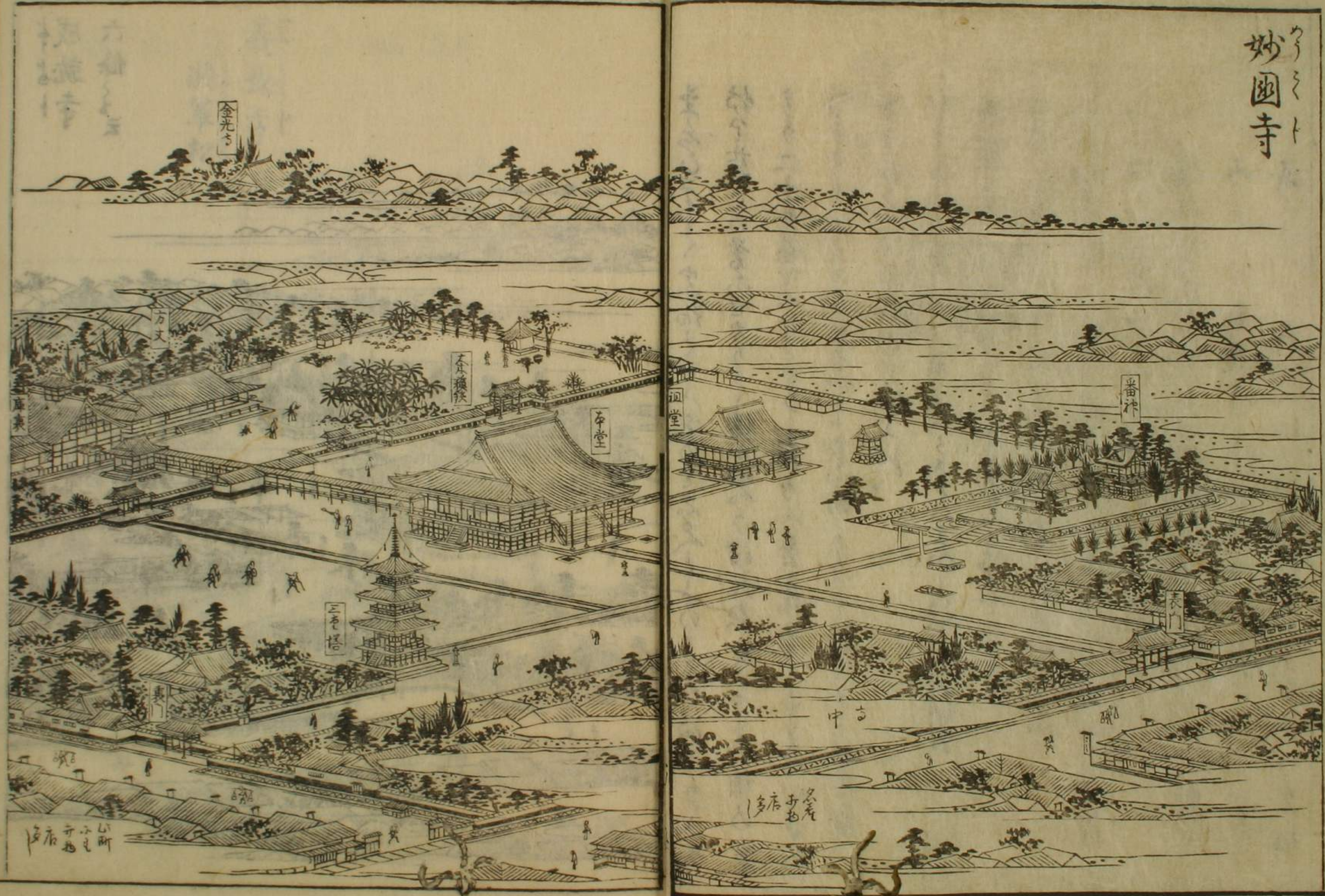
みりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

宗碑

實隆

牡丹花

妙園寺



金光寺

大倉橋

本堂

三層塔

河原町

山田池

洞堂

中門

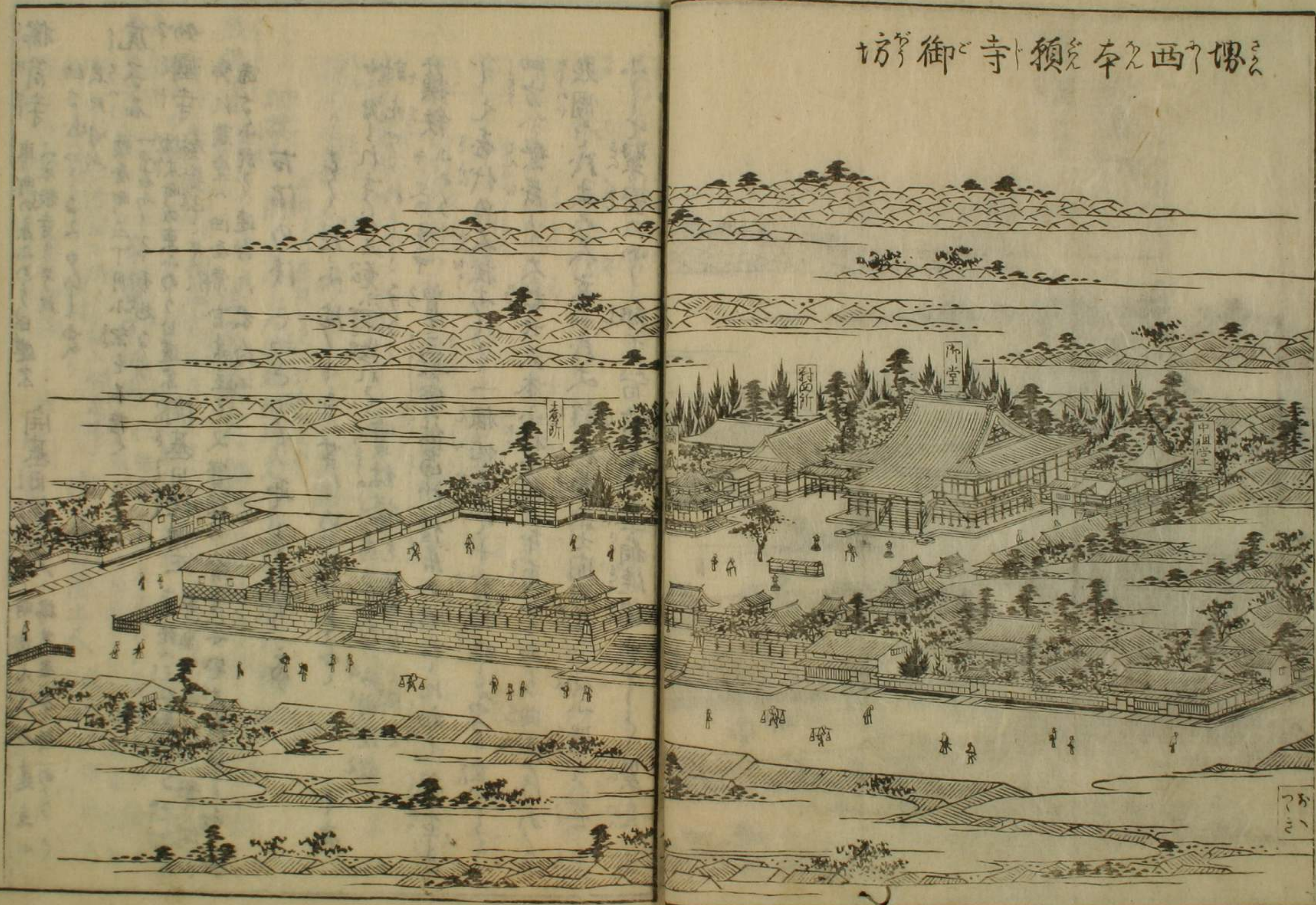
多田町

成就寺
六條とも云

善長寺
將軍松



坊御寺頼本西坊



櫛笥寺 車町の東小あり 明憲宗 同基日深上人 明憲元心の建立

虎子石 箱庭町二丁目 架を石柱

妙國寺 本町の東小あり 日蓮宗 同基日深上人 寺北に三好豊前守之康の

古沼の浅き町とあり 地とあり あり

實休塔 高さ小あり 妙國院殿

一々時代の木柱あり 一椽地上に十有餘椽とあり 其より

熱周を式丈又尺高サ式丈餘 枝葉六七向の陰一四小漫り 蒼色

長むる半風土の寄とひつへ 惣して傍津の海辺より 一々

育とる半尚院に陰る 寺社及び民家よも余國に掃るもの

古本より名樹あり 遠近の旅客尚津に來れを先これ一覽

操の貞松と論を同じうするの靈樹なるを

成就寺 箱庭町の東小あり 同基日深上人 應永十三年 洛日傳上人の師命を奉

金光寺 日所小あり 本尊茶師佛 仁明帝承和元年の珍務梅に

同基直澄上人 輪若大明神乃

紫藤 寺若小あり 齋院 勅して禁庭

植る人た不目りて枯ふた
新築の中ふれを一番の得り

おとしきわ塚のうらむれ後派の那乃松小町はへしとを
所居寤ての後藤の精靈玉體小奏しつるも中感の門く
此分なをたこれ 仰製分係れ紫藤分尚寺に贈延
同此小植ふ忽ち枝刺繁茂して
えのぬし 人感ふはな奇くこれ
金光寺の墓のむら

善長寺 神明町の東ふあり
本尊十一面觀世音 長正永正十三の左馬頭二好
善長は地小澤邊と據り入時

善長寺 神明町の東ふあり
本尊十一面觀世音 長正永正十三の左馬頭二好
善長は地小澤邊と據り入時

將軍松の株主筒井喜藏と運法の内と
御堂の左ふ一龍の和あり

専修寺 神明町の東ふあり
本尊阿彌陀佛 開基玄譽上人 永禄元年の
創り

徳小 法然上人真影の休陀の名号あり
名號の左右ふ一龍の和あり

世にこれ名號と法然上人 後伯法堂に從ひ四天王寺西門よ
来つて目觀觀な地しるふ其時名號な書りあり今の一心寺ハ
そ同蹟に名號も一心寺の什寶なり所一心寺三百餘年と急
大に變遷に及んは時高寺の玄譽上人祖師の同蹟の破壊せん

感しと名号の謝恩に贈るとあり其より尚寺の秘珍とあり
又今一心寺も真影の名號あり 兩幅書

西本願寺御坊信澄院 神明町の東ふあり文明年中極本道顯と
上人小 献に道顯我居住より 幕下な書りひ直に寺内ふ入
縁後しと佛恩を報に故小徳本登御堂とも

本尊阿彌陀佛 本尊の裏に形ありとて長三尺寸に分
本尊の尊徳太子の御化と今わ戸 岡小親寫上人 安並に

築地の御堂に移り安並に今わ戸 岡小親寫上人 安並に
徳如上人の御本尊を安並に 安並に

弟八代蓮如上人ありは他小初 足利義氏の四男祐氏といふ人ありて
父母の没後蓮如して天王寺小住職し其後本願寺弟二代覺如上人

小謂して一向宗の念伴り者成源光寺の草創にあり
足利將軍尊氏同姓の旧縁ふりて寺地の租税と除封田二百石

分納は曆應年中祐氏入道祐深没後封田蓮如上人小献は御堂ハ
極本道顯堂と蓮如上人招請に本堂及び書院對面所等

英纂小く鶯の画は古法眼の茶黒書院に探幽の画は其外同毎く
多く竹隈舟致南の茶小くして結の画は茶力小真妙なり画工の規範
さるく信澄院の廟堂へ南の方ありて中祖といふ額あり
礼堂の額へ丕兼堂と書して共法水上人の茶あり初蓮師
高院小橋居し中時契丹國の詹仲和といふ者觀者の示現
蒙を渡海し津小舟を遠上人の法水小舟入し徳澤
作はこれぞ大悲の畫若くは歡喜し帰國の後謝恩の爲
芳書を贈る今本教書又彼國の画圖を獻は隣寺同宗真宗寺の
神明社神明町系神兩志神宮天武帝の神宇白鳳年中の勸修寺り
六月晦日の大後小住吉の神輿大和橋の南此より遠海をこた出
七夜は演とて宿院小至土人曰け神明社茶院連りて
一説は七堂の演小高僧寺のりし時とて多く神供は
難し今に其例遺りて四地へ神幸ありたりとて説とも
實記といふ共八幡宮本社左あり其外福若社粟若社
經王寺九向町の東あり日蓮宗 圓基日延上人應永年中の

悲田院錦町の東あり法護 奉尊阿鉢陀佛應永年中の
圓基恩計上人姓は保氏和州の人延徳年中當院公州割
十萬十萬の上人自阿鉢陀經十萬卷を著すに故に世人
の傍に悲田院施茶院の支院と初て建ち今に徳太子四天王寺
又極武天皇平安安樂の支院と建ち今に徳太子四天王寺
詳るは抄に和泉國の悲田院ありと云ふなり
福若社高須町あり觀法芝辻通元和年中に勸法し多あり
今真言宗宝祥院とて護は
七堂演北莊の西侯あり相傳いひて高僧寺の
續日本書

光仁帝寶龜四年十一月勅し曰大僧正行基は智徳兼備し
一も先代より推仰する所後生身月公窮する所其修りの
院々都て四十餘宇或は先朝の日施入の田あり或は本來田園ありて
供養の法を得るもあり但し六院へいすは施例小に因茲法藏湮
廢して復恒持する徒ふし糞舎荒涼して空しく坐禪乃趾
修に道と弘る人ふよ門く實小群屬を令く宜大和國菩提登員
生駒河内國石凝和泉國高諸は五院各當郡の田二町を捨給ふ云

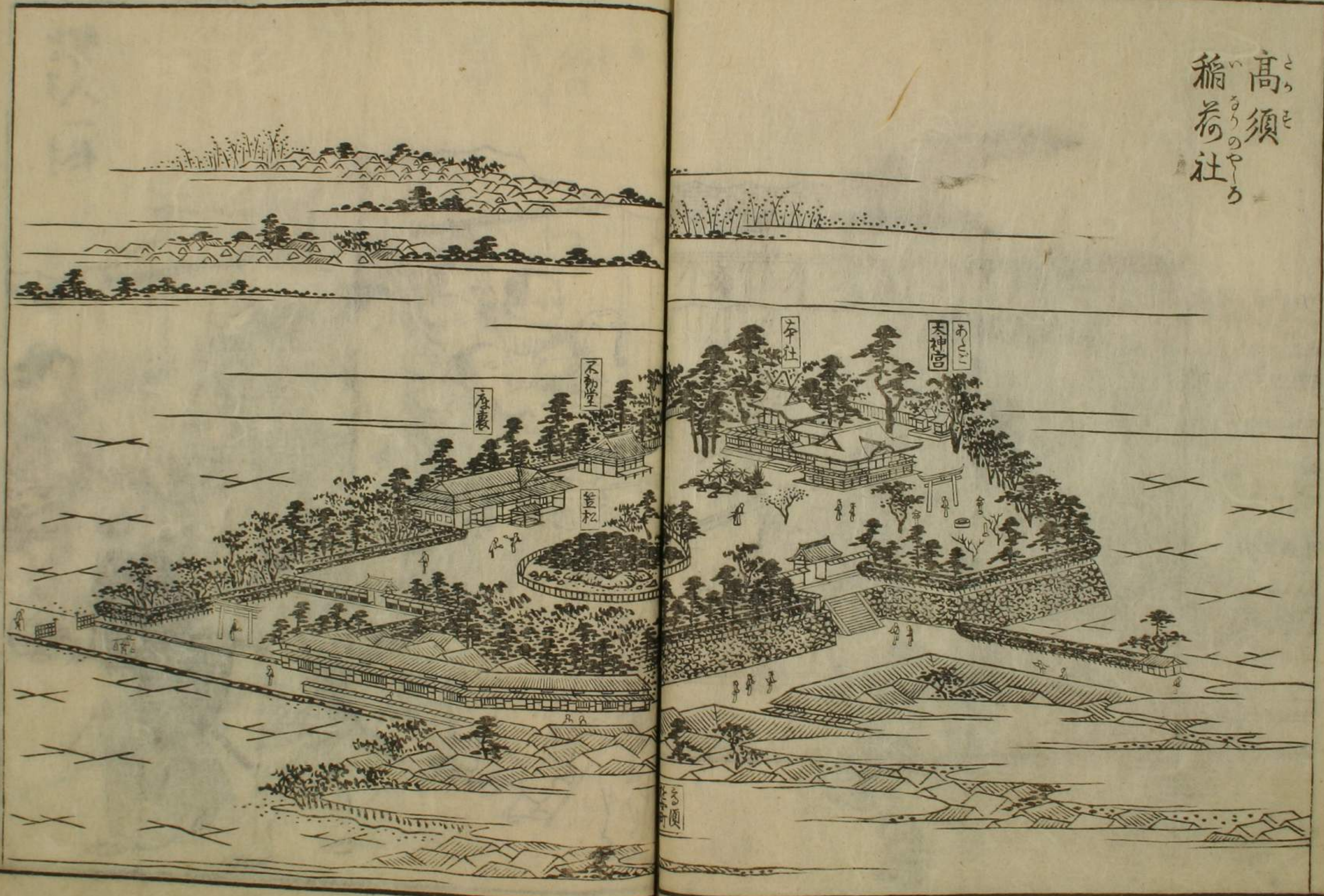
明神像社





博の名産美の石也
 世小名ふる一特小
 石割庵丁里おろし
 諸國小其名はゆ

高須
稲荷社



聲入一休



狂言

一休の

舞入

萬事

一

物

志

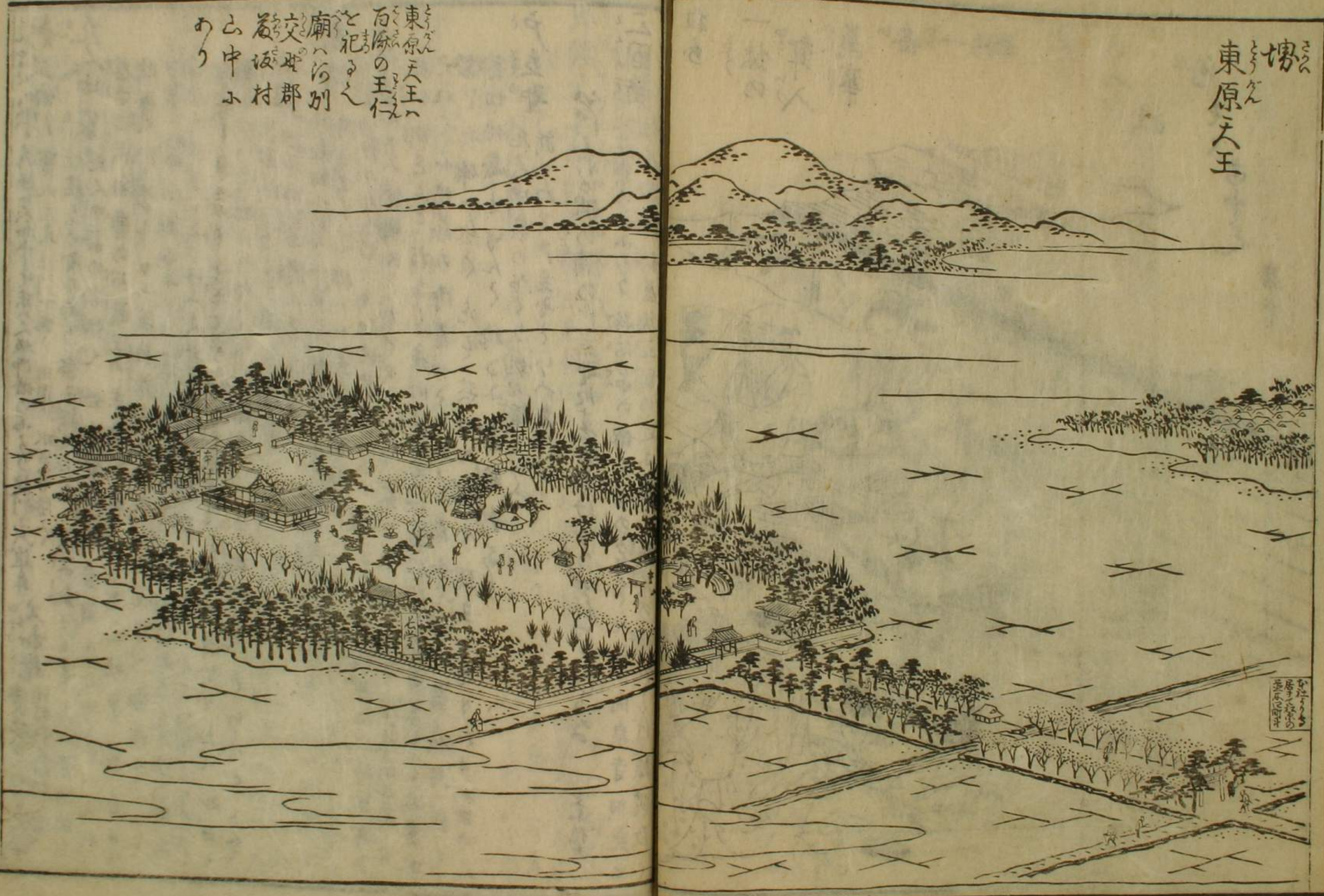
あ

繪

衆



東京天皇
百餘の王仁
を祀る人
廟へ河別
交母郡
岩坂村
山中
あり



塙
東京天皇

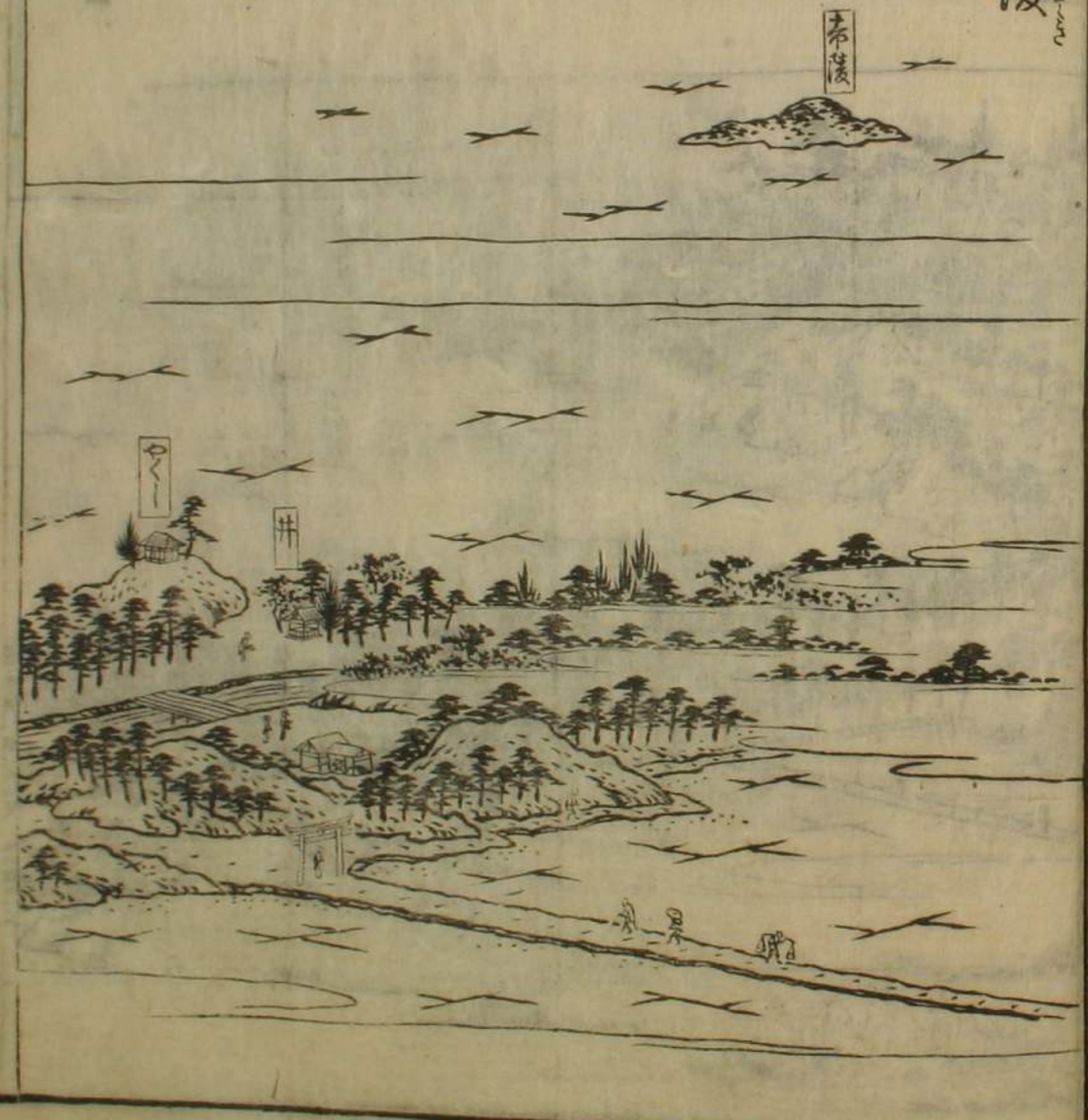
かたより
居るて
是れ
也

のちふか海門とて浦小舟にのりてふも夜風つてもうま
 そくりふりゆりて神子取りてそりてふ波のちちくはとてあひ
 風のふたはとひるまおそりけあつこのちのやたつこおひ
 まことあつこのふ舟を引あけそあつすぬりやまこれと風
 をか吹は舟出さたりぬもあつたさりのふふふふふふふふ
 しく風のさうやまふふふふふふふふふふふふふふふふ
 うもちふみちくはさほとるもあつた入江のふの勢かしまぬも
 おうくくゆ園の人とゆりてそりてその夜とのうまをせたまひて
 石はつづけたまらまうくやまそは舟かこりあつたまう
 かとつふふふふふふふふふふふふふふふふ
 夫本
 あつたふ風をりてたふ舟出といはつた波と消まうく
 更級記の菅原孝標の女此著をみと神祐子内親王の侍女と見定義と
 和泉宮小任と和泉の國府小居に東北孫本殿七代の内和泉殿
 紀傳の道成業と合尊祖小任に

履中天皇陵

万代
南鳥居

白海川
古蹟







湊村の
 隣の
 浦の
 名産
 壺焼
 製
 所

石津川の
 源は錦帯
 妙見川あり
 陶器の産地
 衆水あり小
 會あり
 下石津に至り
 海へ入らば水
 深く布木修ぞ
 晒し花ふ
 出し深地と
 さらり



上石津の
 社





乳岡の一路居士
 塚の外小
 軒番とある
 けきくの人ふ
 今やなく
 遠く禅法の
 要と得く
 九門小
 精錬と

同

月菴ツキドウ似に示し寂地じやくち 諸國しよこくの村むら北きた村むら氏うぢがあはれはれ 兼かみみ小こ相さう分ぶん成なり一いつ

傍たがひ似に玄げん始しの名なはな安あん養やう國こく廣ひろ修しゆのひと之の身みとぬみみ都みやこ小こ 坐まりまりま儀ぎ同どう二に司し實じつ法ぽう公こう小こ學がく六りく名な山さん臺たい地ち之の心こころとふああそそひ 任にん不ふ定ぢやうめめされされれ世よにに今いま死しりりととつつららんんばばてて自みづかも

死しりり小こ姿さむむりり人ひと知ちれれももああららむむ者ものとと甚しん深しんの社

とと裁さいれれららげげ上じやう人にんの墓折せつささららああららぬぬとと歎なげききらら石いし山さん乃のち救きう世せ

菩ぼ薩さつ小こ祈いの其その盡じん苦くふふららくく河か内ない國こく弘こう川せん寺じ成なりととりり得えりり

そそここああららくく唯ただりり塚づかととひひああららいいららくくそそももああららいいららくくのあららくく

とと建たててらら其その寺じ小こ有あららむむ肖せう像ざう成なりも

其その為ためととりり其その時ときのあららふ

並ならびびにに此この人ひとのゆととりり弘こう川せん寺じ小こととみみぬぬのそで

その店のゆららとと一いつとと二にととたたらられれ人ひととと見みてて今いまととくく

ゆゆららりりととひひたたれれと

一いつ家け店てんととももささららににけけりりままの立居ぢととぬぬをを中ちゆうああららせせ思おもふ

けけふふららるるほほとと又またいいららふふままれれ一いつ人ひと住すむむ時とき捨すて鉢ぼちととりりの二ととくくとと古こ小

のせくく一いつ日いちの糞に充飯はん炊ひくく煙えん火か除のぞききららとと我われ 中ちゆう界かい 次つぎ之の浦うらに有

るる時とき之の流ながるる塩しほ竈いば成なりととりり一いつの葉又また井いの川色いろああららむむ

弘こう川せんととぬぬらら同どうととささららの店成なりけけらら

恒こたへ久ひさ人ひと杖つゑととみみちちのさらられれ山さんとといいららの下店てん

若わか湯ゆ水みづの奥小こ太たとと恒こたへ々々のゆらら其その外ほか高たか野のの奥龍りゆう門もんの流はなとといいと

世よ離はなれれ新あらたくく小こ住すむむ意いははらら自みづか記きありりの草とと並ならびびにに小こ見みゆゆ八はち旬じゆんと

のまりりとと私わが泉いづみ園えん躰たい尾びの高富とみ北きた村むら氏うぢ小こ身み成なりとといいててそそととああららくく段だんと

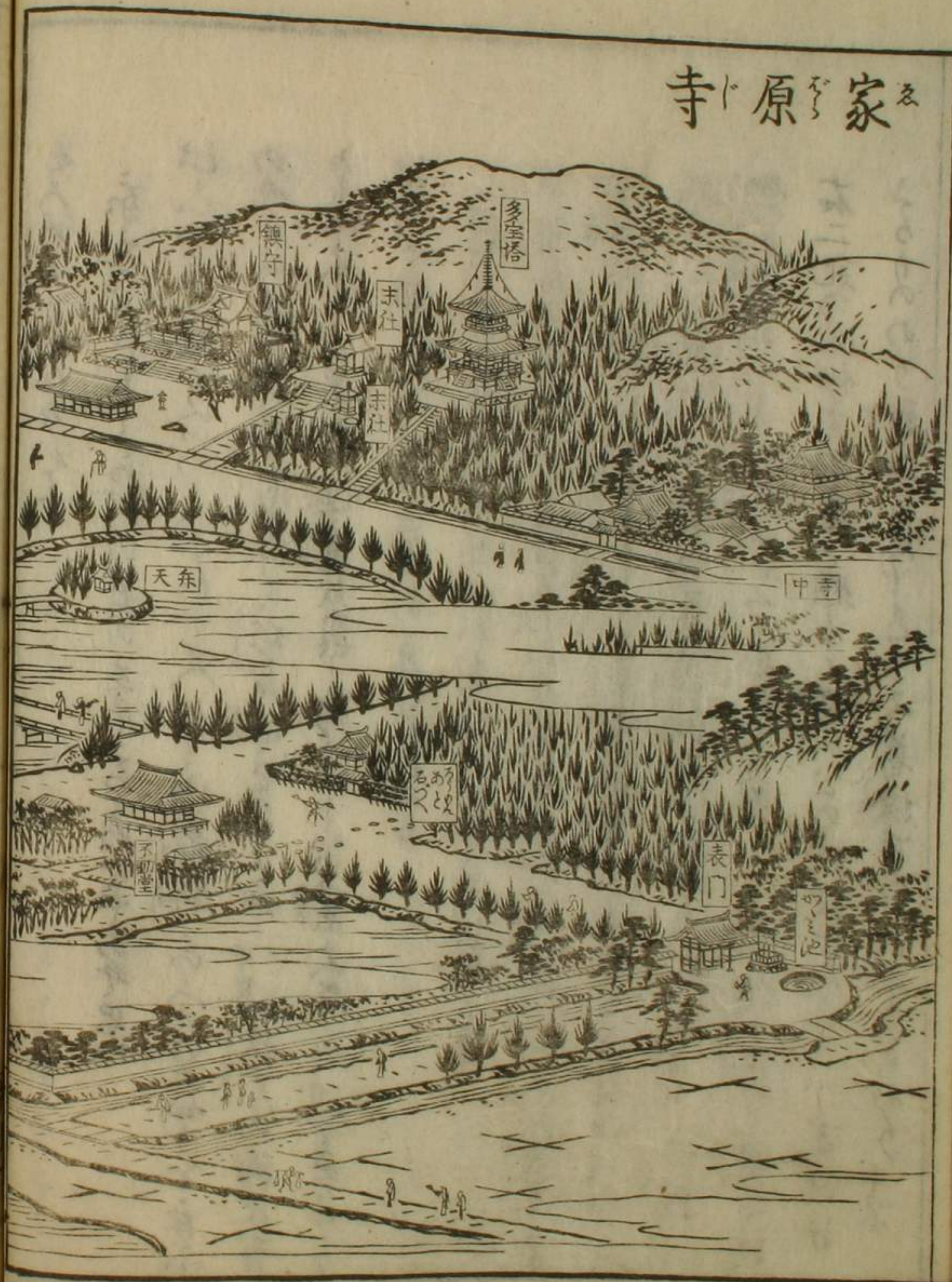
體たいはは遠とほ言こととと弘こう川せん小こああららるるありりとと同どうとといいららの債とと築つくくく者ものとと新

右みぎ二に記きの外ほか似に玄げん始しとと題だいしてして儀ぎ同どう公こうの市從じゆうととたたりり書かきふふ書かきははけ

ららりりのゆらら雜ざつ話わももゆゆららととりり又また葛かつ城じやう百ひゃく首しゆとといいららのゆららりり下くだ界かい



家原寺



一乘山家原寺

家原村小あり開基行基菩薩

本尊文殊佛

左釋迦右普賢共小引基の他本尊の毫中八分の

祖師堂

本堂の小あり沖共引基菩薩

法涼院

本堂の後小あり行基鎮守社

誕生木

胎後と引基樹し龍穴

放生池

西門の内小あり樓門趾

聖天尊社

小あり若光寺塔

二王門

金剛力士二反田

支那原寺

中へ大傍正行基出謎の家地

精舎

天智帝七年小生息の父と高志氏

貞知幼名

法貴九と別名百濟王の裔王仁の後之母と塔田

首虎身の女

茶師娘といふ今の際田の茶師寺の行基自記して曰

山海兩邊

中間小一茶菩提峰といふあり慈尊成道の傍地

虚空會場

小異る西北の蒼海浪上洋々として遙にあり

億國小念

一觀法成九品に澄し其心之狀ハ獅子小知り北面に

崎身

道眼ハ窓雕ハ初毛ハ竹鬚ハ蘿其狀宛然として二國の土

衆

壇ハ築き一字ハ建く釋迦文殊普賢ハ安に傍り

二層塔

中ハ四智佛ハ畫く安し西小茶師堂と作東小鎮守の

神

祀る良小食堂伸小開基平居の祿室ハ上小と龍穴あり又

赤龍淵

といふ所ハ漢高の壺ハ祠とこれハ引基の系脈百海王ハ

遠祖

ハ西門の傍小放生池あり引基若く是路のとれ里の年少負ハ

捕

く池邊小宴ハ戲し不膾ハ引基に薦む昂あれハ喫く池に

隘

吐出一夕ハ小鼻とる月く水上小遊ハ行目鼻今小あり里人

奇異の心と云はれ、憤の上小櫃あり、初生の時胞と掛はるり、これ今に
誕生本と云ふ方田之辰あり、これ天下田畔の歩殺と檢る法則と云嶺
と一系菩提者といふ故、一系と稱し、其本生乃家地るれを
家原寺と稱し、其基の室は清涼院と云ひ、神母乃有北崎は
神崎院と云つ、外門は則り基誕生地と稱し、佛塔は香燈
本院と稱し、都くは寺小名勝十區不違り、天正丙子年波羅門
僧正直金の文殊は本堂文殊の臺中に藏む、同く將來の五色乃
佛舍利寶藏に収り、法貴丸幼名の產婆子花の存財天宮每果
六月廿二日虫拂ふあり、續日本紀曰大僧正の基都鄙小周遊
し、く衆生を教化し、四方要害の地は橋瓜造り、坡瓜築し、
百姓今に至る、其利を蒙るもの多し、豊櫻賣天皇聖武甚教を
し、ひて詔し、く大僧正を授く、和尚の甚異神驗多し、時
の人、其基菩薩と稱し、留止の所み、道場と建、畿内にも

凡て四十九院諸道も亦多し、竟小天平勝室元年二月丁酉

遷化に 齡八十

文明十一、二月十日晴 家原寺に修せ文殊を祀り

山風のさそをたにちり、みてもたつたり 親長

家原城は、家原村小あり、中江寺町左近、齋部次左衛門、城を築く、威を著し、

兩士を攻む、ゆに城とあり、終に終にあり、少く自害に、時泉州

華林寺、村田村小あり、法香と稱し、いみ、一、村田さくし

本尊藥師佛、基の化存像 同基大僧正行基、所、り、基の母、茶師女の

轉田神社、正井村小あり、延喜式内、系神、天兒を根、命

大鳥大明神社、大鳥村小あり、延喜式、神名帳曰、名神、大月、次、新、堂

系神日本武尊、三代實錄曰、貞觀元年、春、正月、和泉國、大、神、小、從、四位、公、授、く、同

秋七月二日、大鳥の神、小、從、二位、を、授、く

大鳥社流記云、○才一、天、大、日、靈、尊、系、神、天、照、太、神、○才二、大、鳥、余、比、比、神、社、系、神、日、本、武、尊

○才三、中、津、尾、原、神、社、系、神、兩、入、媛、命、○才四、大、鳥、整、敷、神、社、系、神、穴、戶、媛、命

○廿五丈鳥井瀬神社を神弟橋媛命

大鳥社傳云
出尚社景初天皇の皇子日本武尊より同帝廿七年日本武尊を遣はし
熊襲公擊し心沛兼十六歳之其勲功偉し又同帝廿九年尊公より
東夷公討む出陣の時道と狂く伊勢皇太神宮小治齊宮倭姫命小
系羅御命授け共より東夷公安く平け凱陣の時伊勢國能褒也少く
崩し御歳三十 昂其地小葬し其の陵より八乃の白鳥に化し倭國に
飛去る人群長其棺槨をわいて見れを明夜空に留り屍骨なり
使者公遣し其白鳥を更飛んく河内國古市郡小至る又其地小陵公遣りてけ
二陵公時の人白鳥といふ遂小高く翔り天より白鳥に化し倭國に
同國大野里に建り鎮坐し今の大鳥社と名へ八乃の白鳥鳥公の
大鳥大明神と號し其の雨来一夜小種く樹木生れはは小孫社といふ
一官記曰大鳥社日本武尊よりひり白鳥飛来く其の地にたはる
られ天照を伴の神化なり

羅山本朝地理志畧云和泉國大鳥社ハ神化し白鳥と成る
其の集り故小社と建り其の神は白鳥といふ
平治抄治之平盛盛同系盛盛也小治齊の兵乱と聞く半途より
降し和泉國大鳥神社に到りてを盛平日愛より飛鹿毛といふ名馬公
神馬に奉侍は盛初めを収む

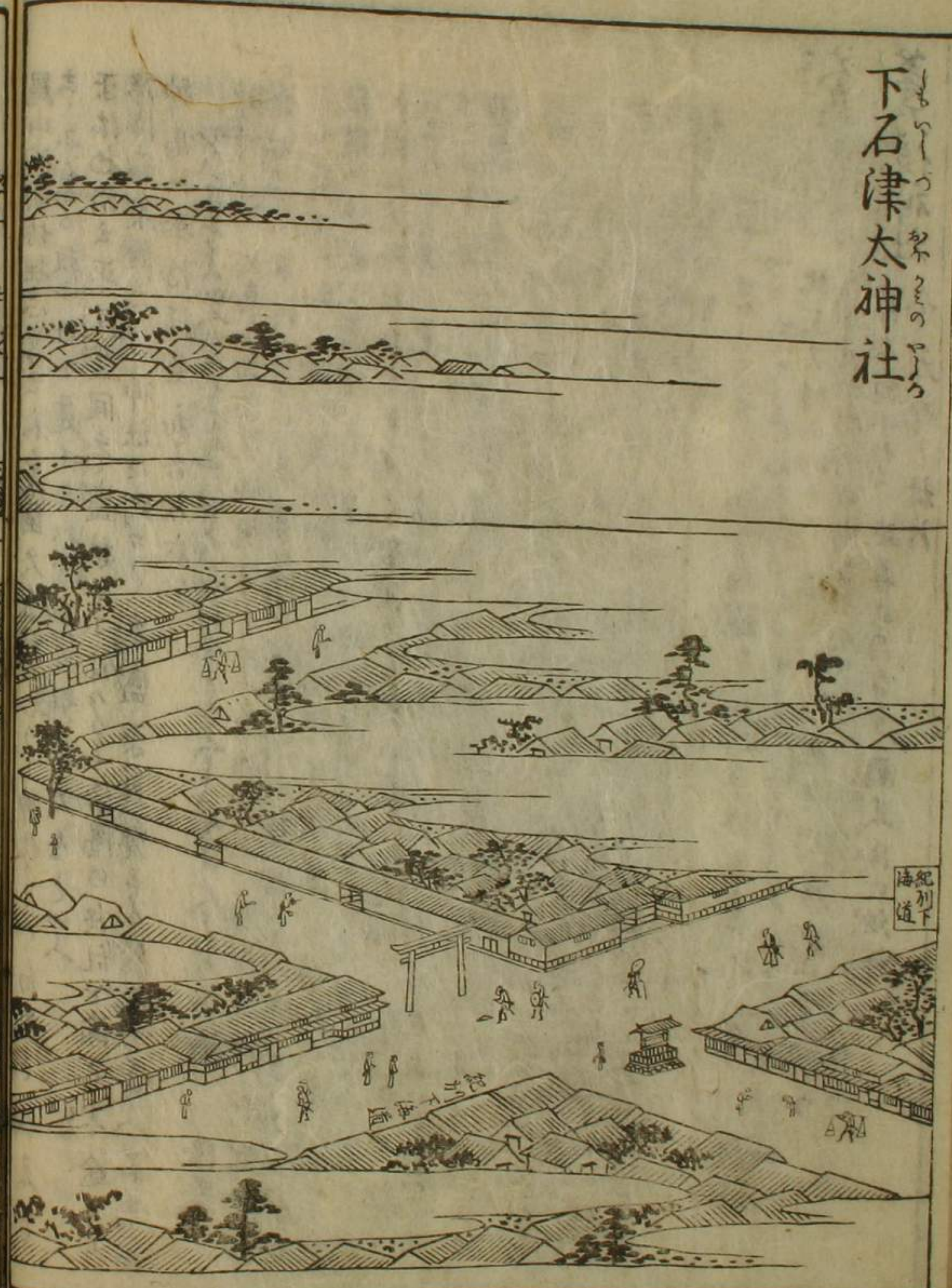
神宮寺 大鳥山勸學院神風寺といふ本堂あり續迦茶所阿羅院公
安に初行基菩薩の廟と所之壁禰四より荒廢に及び

一を寛文の初真政國忍律師直言律院公建り尚國の學校といふ
社額ハ慶長七年十一月豊臣秀頼公泉州五社公再興其後大坂
一乱小大鳥社兵火に罹り破滅し終に塔一基遺り荒廢とわり
一ハ寛文二年二月佛の先刺史石河土佐守孫利政石柱乃
も后公建り再興に及り其時神官寺

行基井 神宮寺厨のありあり
子孫社 尚社の明神影向石 本社の小ありは神不回祿の後叢に
壓れあり石河土佐守密ち送
し持持の石をふる時其疾靈あり神崇たあり
杉子本公植るを
和香二首公すは

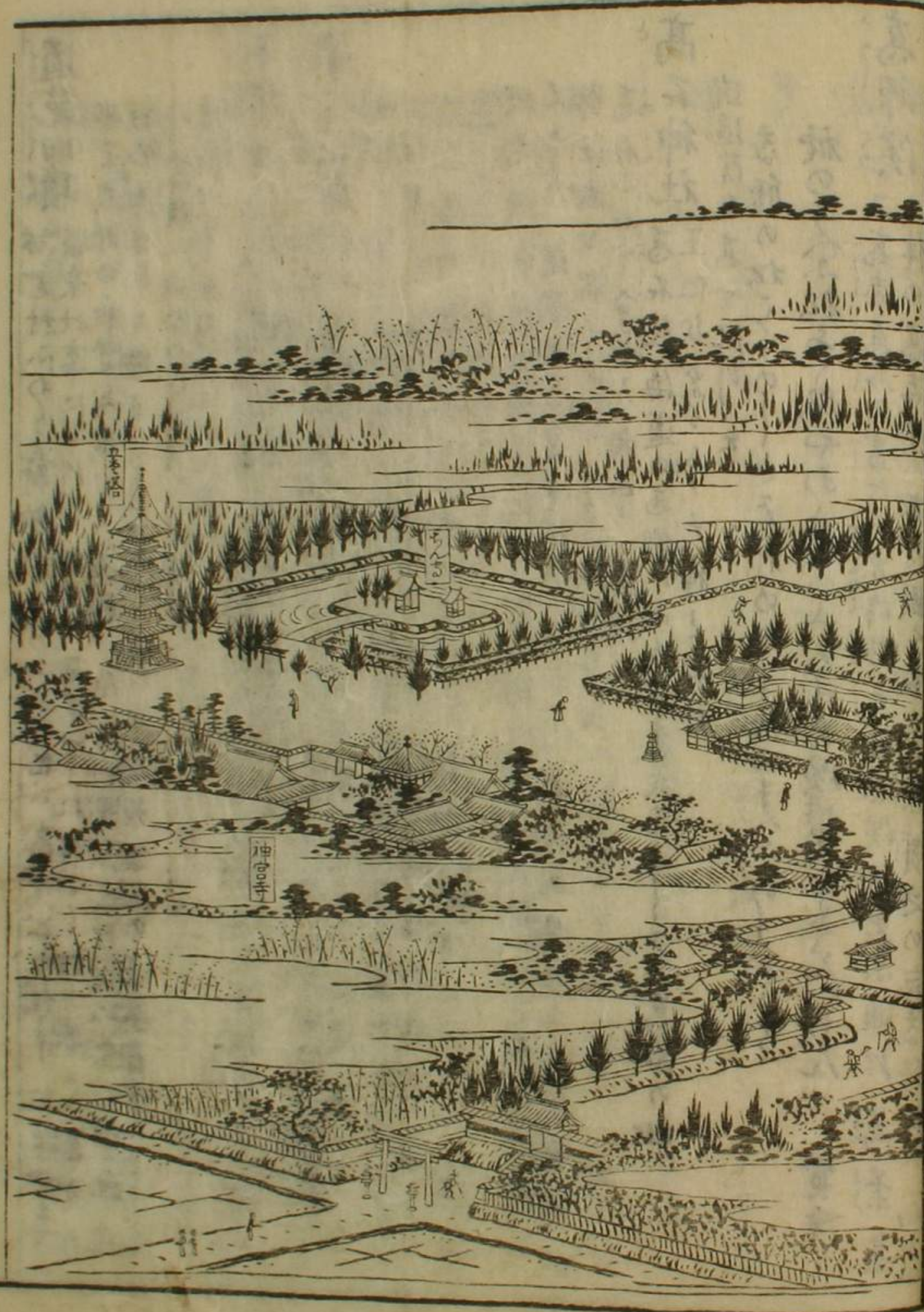
大鳥居王子 北王子村小あり 後香取院慈母りを記ふるあり
等乃伎神社 富本村小あり 延喜式内あり 殿本氏の祖神
今天神と社れ

利政 全

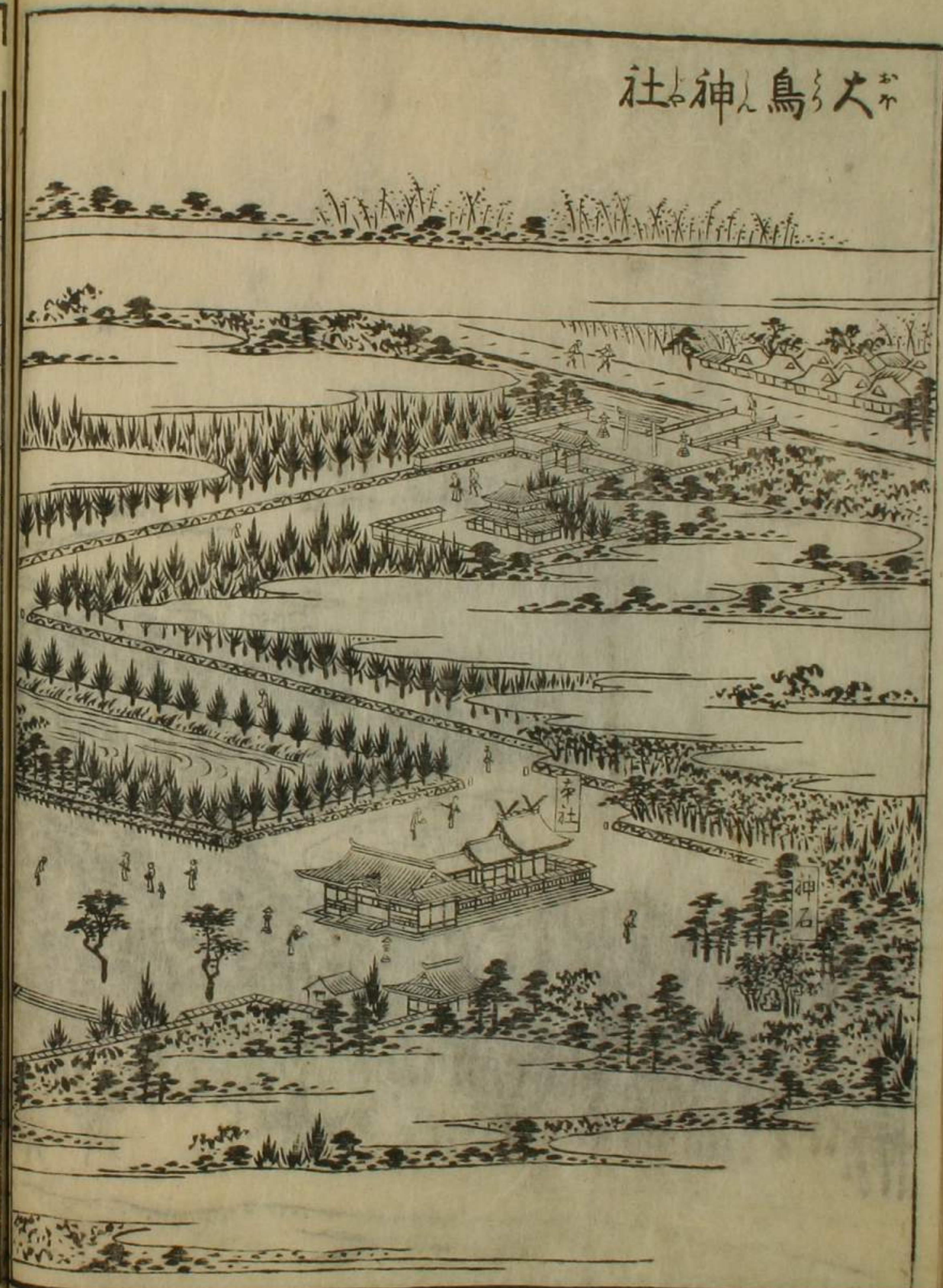


下石津太神社

紀伊下
海道



お久鳥人神古社



道範旧蹟

根尾村小あり常樂寺といふ道範の舊蹟に仁治四年
根尾村の教堂を南に遷すに真顔と名づけし屋室光院に
入京し仁治四年
今宗徒不用ゆりとの多し意ふ
建長四年五月廿二日入寂に

千貫橋

今在家村の西浦小あり俗傳云むくは橋板のみか沉香あり或人
北高石村の海邊小ありむくは橋板のみか沉香あり或人

濱寺旧趾

北高石村の海邊小ありむくは橋板のみか沉香あり或人
今在家村の西浦小あり俗傳云むくは橋板のみか沉香あり或人

高石神社

高石莊海道の西側小あり延喜式内あり高志の祖
王仁が來りて今天神と称に
道通院高志紀り云

高師

又高志高石小書に八雲布抄云高志高師極泉小通に
大伴の高志高師極泉小通に

神のうみ

松風やわづ波のうみのうみ松風やわづ波のうみのうみ
松風やわづ波のうみのうみ松風やわづ波のうみのうみ

高師

又高志高石小書に八雲布抄云高志高師極泉小通に
大伴の高志高師極泉小通に

高師

又高志高石小書に八雲布抄云高志高師極泉小通に
大伴の高志高師極泉小通に

高師

又高志高石小書に八雲布抄云高志高師極泉小通に
大伴の高志高師極泉小通に

高師

又高志高石小書に八雲布抄云高志高師極泉小通に
大伴の高志高師極泉小通に

高師

又高志高石小書に八雲布抄云高志高師極泉小通に
大伴の高志高師極泉小通に

高師

又高志高石小書に八雲布抄云高志高師極泉小通に
大伴の高志高師極泉小通に

高師

又高志高石小書に八雲布抄云高志高師極泉小通に
大伴の高志高師極泉小通に

高師

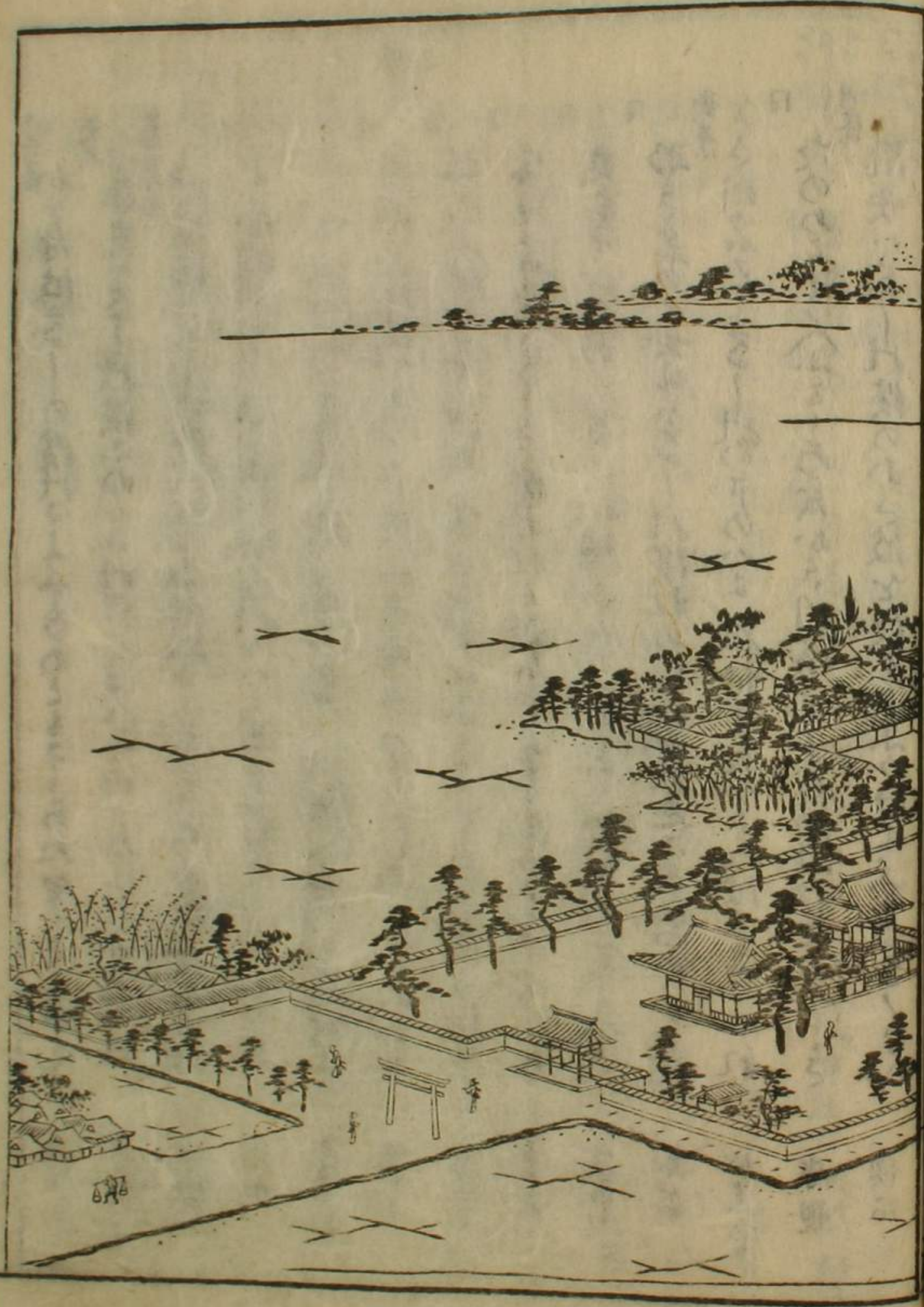
又高志高石小書に八雲布抄云高志高師極泉小通に
大伴の高志高師極泉小通に

高師

又高志高石小書に八雲布抄云高志高師極泉小通に
大伴の高志高師極泉小通に

高師

又高志高石小書に八雲布抄云高志高師極泉小通に
大伴の高志高師極泉小通に



くまの
日部神社
行興寺

不物堂

庫表

山井神社 梅村小あり延喜式内

鉢峰山雨谷院長福寺 鉢ヶ峯の山根小あり一名小倉嶺とす

菅草社 初め當山の良乃方五町許小ありこれと懸る者といひ

神鏡 奉其鏡を祀る武内宿禰に命し社成造り同五十五年神鏡

金堂 奉尊茶師師日月光二層塔 五智如来 樓門 金剛力士の

閑基法道仙人原天竺の人あり播州法華山小あり法華經を

誦密觀心修持持する所の齋具千石之數の像佛舍利寶鉢一時小

けふに飛來つゝ法道の窟小入り布鞋舎を以て安んじに安んじに又

為小鉢を虚空に飛して供へ受る人咸壽くとす故小名鉢峯と

いひあり一々堂塔巖を以て傍坊四十九院あり其中小雨谷院

釋迦院ハ法道仙人居位の地と什審小と阿含經の原書あり

弘法大師の直蹟之佛舍利十粒寶鉢一箇坐具一牧惠亮の櫛結

又弘法大師真筆の法華經見宝塔品の初一紙小松内大臣自筆の經

其外古證文制狀等多し

妙見山感應寺 上神谷富藏村の中小あり四方疊山嶽々々として傍坊

妙見堂 感得の地と年久しく荒廢に及び一々傍坊妙見寺の

同後上人再會つゝ經宗の宗護神とす毎歲三月十六日九月

十六日ハ山の法會ありと傳へて集り

櫻井神社 月倉村小あり延喜式内とす神武内宿禰小八幡宮と

陶器莊 昔ハ大村郷 深坂村 田園村 辻村 大村 北村 府久田村

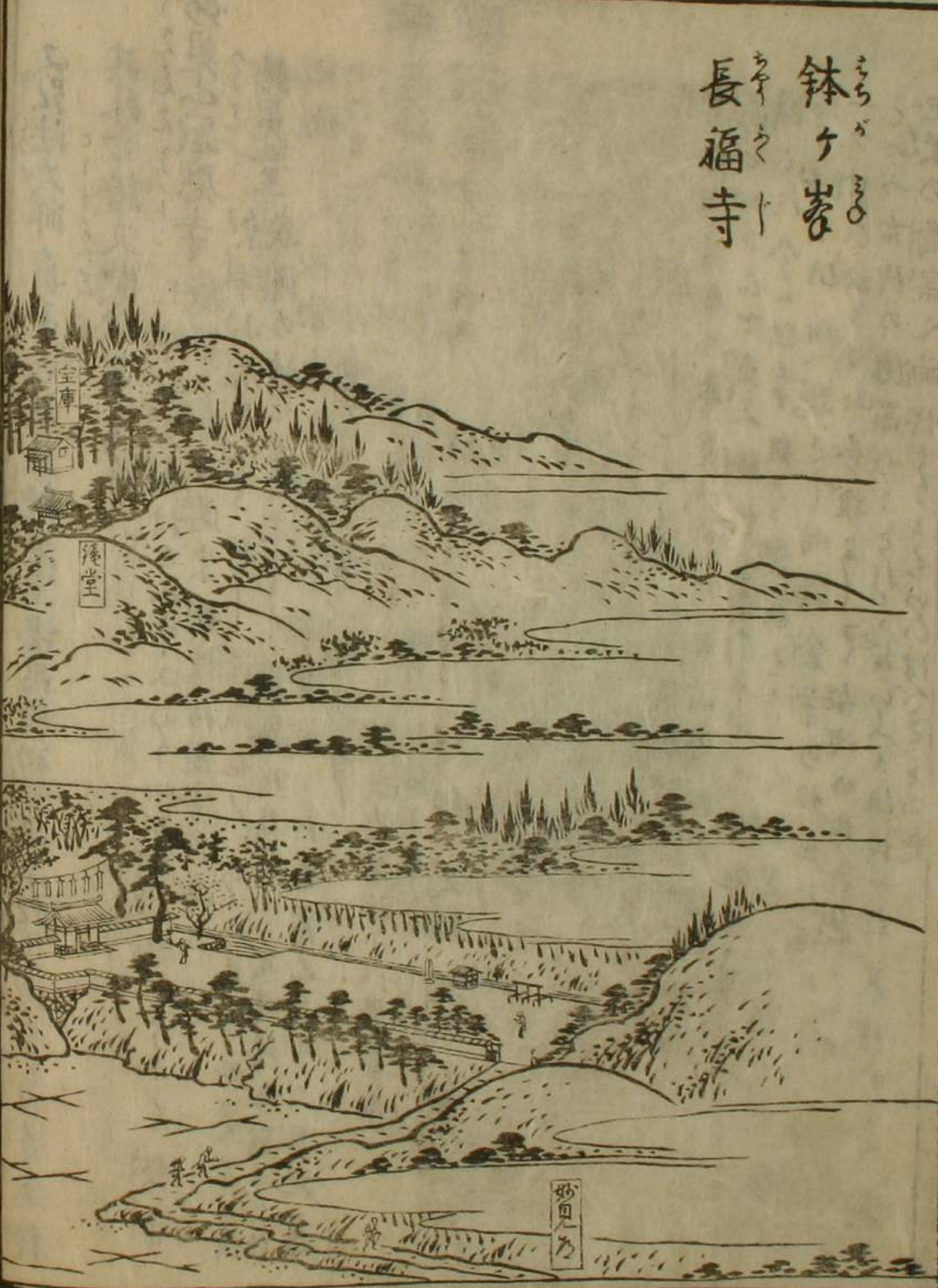
多く作を出水ゆ名とす日本紀崇神天皇七年の卷小日記

實錄曰貞觀元年夏四月廿一日丙午和泉國陶器公燒

籬と伐つふと朝使左衛門少尉紀今影等秀一とす

一ツ貫ひの古代の陶器ありとすははり基時代より

已の陶器と神代よりとすははり基時代の



鉢ヶ峯
長福寺



妙見山
感應寺



陶器庄
高倉寺

ひやうりの
土中より
今も陶器
伝説あり
朱海れよ
あり

陶器十景詩十首

林道春編作

○甚羅山詩集云小出有宗君食邑泉州陶器之水陸之佳景
 歌十篇以其尤者求或其中似樂府則恐得已綴長耶
 遂書以贈焉
 疎剛初雪
 漸怪露散
 雖待村梅
 描出此景
 水澄衣與
 即墨王壁
 建武天子
 此山岩子
 淡路殘月
 渾沌氣洩
 天光雲影
 吾聞乾坤
 姪娥浴後
 萬松風聲
 木公本靈
 時天下銷
 如鐵皮為
 漸覺霜洗
 漸覺霜洗
 漸覺霜洗

○者起蘋末飄々
 度曲使然乎
 江上漁火莫
 鍾鮪鱗鱗
 愁眠相對
 點々小星
 何爲魚目
 曾聞和道
 須談片帆
 斜日解纜
 不產南交
 蜜產南交
 浩蕩如交
 更有孤山
 炭竈薪煙
 欲採薪陳
 束縛布裏
 天要寒裏
 唯要寒裏
 寸灰寒裏
 髮平孫臆
 太願比屋
 我願比屋
 秋夜林栖
 見羽毛
 千陽鳥遊
 人垂帷
 淚涕在北
 在南何無
 信

鳥主為奴如有禮衙蓋既知避戈增喙苦豈必謀稻米
 對影怡々友兄弟
 池塘春水
 四時就中春深好
 雕池蟠桃唇尚含
 昆明齋淪湛如藍
 臘夜月樓先可探
 白鷗溶漾又淡々
 湖邊梅屋更何見
 華萼相輝長日浴
 菜榆猶映七星潏
 淘沙平處見睡鴨
 逐水曲時舞征驂
 杖屨石髮高低路
 穀生波紋未往嵐
 最憐芳艸屬謝五
 相像株松期三樹
 影常浮早午晚
 萍水相遇東南唯
 知鯉雙與鴻春潭
 又見鼈薄兼龜參
 君不與涇善女龍
 有角有尾躍春潭
 不見古人臺
 沼固與民共樂
 仁風和氣德廣覃
 王登審殿野老歌
 所歌盈耳歡聲多
 編戶壤歌如德熙
 鼓腹更無宅雞犬
 相聞不來在
 奉々服膺豈偏頗
 祗緣日微擊壤去
 勿謂今奈結繩何
 粒鮮共食雖世遠
 陶唐成功使人和
 遂使天下謳歌舞
 葛天浩唱無干戈
 寒殿前朝寺千年是
 靈嚴未逢僧掃
 古寺晚鐘
 兼先見鼠竄既及
 黃昏有蝙蝠飛化
 白鷗翻楓杉扉
 塔霜薦屨澳山風
 吹衫側襟揚寸莖
 蒲牢口不緘娑婆
 世界音聲說耳根
 難拔又難芟忽覺
 浮生添一日誰陪
 曼陀散微雪佳人
 回首碧雲外駭々
 隙駒脫轡街
 陶荒田神社
 土生神とん荒田
 直神鳥魂令叙根
 令二たん系た
 神宮寺今務福寺とん
 いみ一ハ大村さと福に

大集會山天王院高倉寺

陶器莊高倉村あり

金堂

本尊藥師佛

祖師堂

本堂の東ふあり弘法大師の安に

行者堂

大師堂の南ふあり法苑菩薩

大日堂

本堂の南ふあり

鎮守社

大師堂の南ふあり熱地白山

弁財天社

本堂の南ふあり弁天

佛蓋

文武天皇御宇慶雲二年仍基菩薩開創一といひ一ハ

佛蓋

佛蓋山魏々々々坊舎数多あり永正十年癸酉十月十穀沙門

直海

直海に畫する高き佛蓋の古圖に之より上古ハ此地を以て脩惠院

とも林

とも林に南寺の什具鏡の銘曰之安五年十月十八日大修惠院と鐫に

又水

又水天尊の影像あり弘法大師の真筆と正平年中大旱あり勅あつて

法雨

法雨の法一七ヶ日ける像小修りありなれを忽膏雨頻降て百姓大平ん

楓

楓へ又巨勢金剛が畫一佛像の一軸あり僧都にけさの小五所ふあり

これ

これハ有心傍都たに來つて整へる所と云ふ又梵字芝といふあり

高倉

高倉村より十所許在あり地上に梵字の形ふ凹ある土地あり年々

悪くも煙^{くも}は又^{また}芝生^{しばせい}生^{せい}ず^す入^いりて^て高院^{かうえん}の^の閑寂^{けんじやく}幽棲^{ゆうせい}の^の地^ちより^{より}二^に密^{みつ}乃^の
 床^{ゆか}涼^{すず}しく^{しく}白月^{はくげつ}禅心^{ぜんしん}を^を照^てして^{して}鬼神^{きしん}も^もく^く服^{ふく}役^{やく}を^をする^{する}の^の地^ちなり
 取^と石^{いし}池^{いけ} 有^あ高^{たか}石^{いし}あり一^{いっ}説^{せつ}少^{せう}信^{しん}大^{だい}郷^{かう}とも
 万葉^{まんやふ} 妹^{いも}手^て乎^や取^と石^{いし}池^{いけ}之^の浪^{なみ}向^{むか}從^{より}鳥^{とり}音^ね異^い鳴^な秋^{あき}之^の良^{よし}之^の
 所^{ところ}不^ふ願^{げん}宮^{みや}旧^{ふる}蹟^{あと} 後^{のち}日本^{にっぽん}紀^き小^{せう}出^{しゅつ}より 聖^{せい}武^ぶ帝^{てい} 玉^{たま}津^つ傳^{でん}り 魏^ぎの^の時^{とき}に

和泉名所圖會卷之貳終

